



発行所  
鹿児島市山下町4-18  
鹿児島県教職員組合  
発行人 佐土原 光孝  
編集人 小牧 裕彦  
(一部18円)  
TEL 099(223)8345  
FAX 099(225)1358  
E-mail:kjtuosen@g-coop.com

組合員の購読料は  
組合費に含みます。

教員免許更新予備講習に関するアンケート調査より

## 学習資料



教員免許更新制度来年4月実施

# 課題山積!

教員免許更新予備講習に関するアンケート調査  
(鹿教組実施)より

本当に、この講習がずっと続くのでしょうか？

なぜ、この制度を導入しなければ  
ならなかつたのか？

教員を信頼しなくて教育に未来はないと思う

<アンケートの自由記述欄の声>

# 免許更新制度実施に関する文科省の09年度概算要求 約46億8千万円 しかし、財務省の査定は厳しい!?

8月28日に、文科省の2009年度の概算要求が公表されました。その中で、「教員免許更新制の円滑な実施」のために新規項目として要求された「免許状更新講習開設事業費等補助」(46億5800万円)の内容は、免許状更新講習を開設する大学などに補助を行うものとして、山間へき地や離島などの講習開設者に対する補助、特別支援学校関係や職業専門教科・科目の更新講習の開設者に対する補助となっています。その他に全国的または地域的な教育課題等を明確に把握し、解決のために役立つプログラムを開発・提供する開設者に対する補助となっています。

文科省は、この予算要求は「講習開設者に費用負担することによって、結果として受講者の負担軽減になるとを考えている。予算獲得の面から個人の資格である更新費用に補助するというのは難しく、予算獲得のための方策である」という考えを日教組との交渉の中で示していますが、今のところ財務省は、この制度に対する予算要求を徹底的に押さえ込むものと思われます。

また、教員免許法「改正」の国会審議の際、更新講習に参加する現職教員への交通費補助が課題の一つとして指摘された経過がありますが、交通費補助の創設は見送られています。

社会保障費と同様に徹底的に切り詰められていく教育予算の中で、巨額の予算を、制度設計も整わない、また、受講者の不安や不満の解消に応えることもしないで要求することが、はたして、教員の資質向上につながるのでしょうか。

また、仮に、この予算要求が認められなかった場合は、来年4月からの本格実施に向け、更新講習を実施する大学や関係機関は、受講料をはじめとする諸経費を受講者からの徴収でまかなうことになります。さらに、受講者の交通費等の経費は自己負担となり、大きな出費を強いられることになります。

このように、制度設計や条件整備が整わない中で、2009年4月1日から免許更新講習が見切り発車することになれば、現場に不安と混乱が起こることは必至です。試行期間を延長するなどの措置を行い、制度内容の十分な分析・検証を行うことなしに更新制度を導入することは、断じて容認できません。

## はじめに

2007年6月に教育職員免許法が「改正」され、教員免許更新制度が導入されることになりました。文科省は、この制度の目的を、「その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すもの」としています。また、不適格教員を排除することを目的としたものではないとしています。

この制度の導入を巡っては、国会論議でも賛否両論さまざまな議論がなされ、「受講者のニーズの反映」「費用負担の問題」「現職研修との整合性」など制度改正に関する多くの問題点や課題が出され、与党自ら多くの付帯決議を付けることになりました。また、全国都道府県教育長協議会も制度の導入については、教員の資質向上を図るための様々な既存の制度との関連の中で、本制度の必要性、実効性について、強い懸念を表明し制度設計に係わる意見を表明してきた経緯もあります。

また、文科省の教職員の勤務実態調査でも明らかなように、慢性的な過重労働によって、心身に不調をきたす教職員が増加しています。このような学校の現状で、教員免許更新制の導入に対しては、現場の多くの先生たちから、新たな負担増を強いることになるという不満の声が上がっています。

しかしながら文科省は、5月に来年度からの実施に向けて、本年度試行講習を行う大学・法人の発表を行いました。鹿児島県においては、国立大学法人鹿児島大学が、試行講習を行うとして、予備講習受講者募集を行い、鹿児島大学の郡元キャンパス、及び、離島の種子島会場、奄美大島会場の3カ所で夏季休業中を中心に実施されています。今年度予備講習を実施した全国の大学・法人等は、予備講習プログラムの実施と評価、課題の整理等を、すでに、10月に文科省に報告を行っており、2009年4月1日実施に踏み切るための予算要求等を求めていました。

本県において、制度の実効性についての懸念や不安が払拭されないまま実施されたこの予備講習は、初めての試みとはいえ、受付の段階での混乱や制度の周知・広報の問題、希望した講座を受講できなかったなどの問題が、現場の先生方から指摘されています。全国的にも、受け入れ態勢の問題やニーズに応じた講座開設が設けられていない問題など課題山積です。今回の試行段階において、制度自体のあいまいさや教員の新たな負担感などが、より浮き彫りになつたといえます。

今回の試行講習受講者や受講を希望しながら予備講習を受講することができなかつた方々の実際の声を集め、文科省や県教委、免許更新講習を実施する大学などの各機関に対し、要望・要求等をしていく必要があります。

このようなことから、鹿教組は、9月から10月の初旬にかけて、アンケート調査を実施しました。短い期間での調査依頼ではありましたがあが、多くの先生方からの声が寄せられました。時間的な制約の中で、集約した貴重なデータをより多角的に分析・検証するところまでは至っていませんが、現場の先生方の不安・苦悩・怒りなどの声を掲載しましたので、広く活用していただきたいと願っています。

## 1 アンケート調査の目的

文科省は、全国の大学・法人等で免許更新講習の試行（予備講習）を開始し、この試行とともに、2009年4月実施に踏み切ろうとしている。夏季休業中を中心に、全国で試行講習が実施されているが、各都道府県においても様々な混乱が起きている。

そこで、本県において、5月に鹿児島大学が募集した予備講習に参加した方と、今回予備講習を希望したにもかかわらず受講できなかった方を対象に、アンケート調査を実施し講習の募集方法や講座の期日、内容、制度設計の不備などについての問題点や課題などを明確にし、関係機関への要求・要望等に生かしていくために、この調査を実施した。

## 2 調査期間 2008年9月～10月初旬

## 3 調査方法

### (1) 調査対象

2011年3月31日時点で、35歳、45歳、55歳となる教員で現在、学校に勤務している県内の小・中学校及び特別支援学校の教諭・養護教諭・期限付き教諭・講師の職にある者。

### (2) 調査方法

支部を通じて各分会に調査用紙を配布し、各分会から該当する教員に配布・回収した。

### (3) 調査項目（本誌巻末に掲載）

- ① フェース（基本属性など）：学校種、年齢（3区分）、受講会場（4区分）を尋ねた。
- ② 予備講習の周知に関する状況（問1）：5月に慌しく行なわれた予備講習募集の情報をどのように知ったか、周知の徹底はどうであったのかを明らかにする。
- ③ 予備講習の募集について（問2）：インターネットによる鹿児島大学の募集方法に対する対象者の意識は、どうであったかを明らかにする。
- ④ 今回の予備講習受講の動機と希望した講座について（問3、4）：対象者の受講動機の傾向と希望する講座を受講できたかどうかを明らかにする。
- ⑤ 予備講習受講の状況（問5、問6）：必修・選択の受講状況、講座の内容に対する意識、開設時期、受講者のニーズ、受講した感想などの傾向を明らかにする。
- ⑥ 予備講習受講のための勤務処理について（問7）：勤務処理の問題点を明らかにする。
- ⑦ 予備講習参加のための自己負担について（問8）：交通費や宿泊等の自己負担の状況と勤務場所による出費の格差について明らかにする。
- ⑧ 10年目研修との関係について（問9）：10年目研修と重なる者の意識について明らかにする。
- ⑨ 教員免許更新制に対する対象者の意見（自由記述）（問10）：今回初めて実施される制度、および今回予備講習に参加した当事者の声から、様々な問題点や課題を検討・検証する。

## 4 調査結果の概要

以下の結果報告の数値は、基本的には未記入・無回答を含めた実数で表記している。パーセントが必要な場合は、数値は%と併記を入れて表記している。その場合、標本数が少ないので、パーセントは、「整数値」（四捨五入して）で示している。従って、100%にならない場合もある。回答者が記述した文は、原則原文のまま掲載しているが、一部カットした部分がある。それについては、併記書きを付した。

アンケート調査用紙には、属性として勤務地、あるいは、居住地の記入は求めていないが、自己負担等の分析で必要な属性であったので、調査用紙回収時に、各支部を通じて集めていふことから、地区を特定し分析に利用した。

分析については、データのクロス集計を行えば、各事項との相関関係が綿密に、より多角的に分析できたと思うが、今回は、時間の制約の関係でクロス集計までできていない。文中の鹿大とは、鹿児島大学を指す。

## 5 集約数 10月24日現在 集約総数 221名 (内、予備講習を受講した方: 153名)

### 【学校種】

小学校	中学校	特別支援学校	合計
123人	75人	23人	221人

※そのうち受講できなかった方 68人

### 【年齢区分】

35歳	45歳	55歳	未記入	合計
80人	104人	35人	2人	219人

※ 6月県議会において、やなぎ誠子県議会議員が、「教員免許更新制」について質問した。その中で、県教委は、来年度、更新講習の受講対象となる教員は、35歳が約600人、45歳が約500人、55歳が約100人、合計で約1200人程度になる見込みであると答えている。それから考えると、今回のアンケート調査に回答した方の来年度対象者総数に対する割合は、35歳が13%、45歳が21%、55歳が35%で、3つの年齢区分の平均は、来年の対象者の18%にあたる方々から回答が寄せられたことになる。

### 【受講会場】(複数回答)

鹿児島大学	奄美大島	種子島	他県	未記入	合計
124人	21人	20人	7人	6人	172人

※ 1会場だけで受講した方の割合が大半を占めるが、以下のような複数の会場で受講した方も少数ではあるがあった。

- |            |               |           |
|------------|---------------|-----------|
| ・鹿児島大学+種子島 | ・鹿児島大学+奄美大島   | ・奄美大島+種子島 |
| ・種子島+他県    | ・鹿児島大学+種子島+奄美 | ・鹿児島大学+他県 |

○ 予備講習を受講できなかった方: 68人

### 【学校種】

小学校	中学校	特別支援学校	合計
40人	21人	6人	66人

### 【年齢区分】

35歳	45歳	55歳	合計
20人	34人	13人	67人

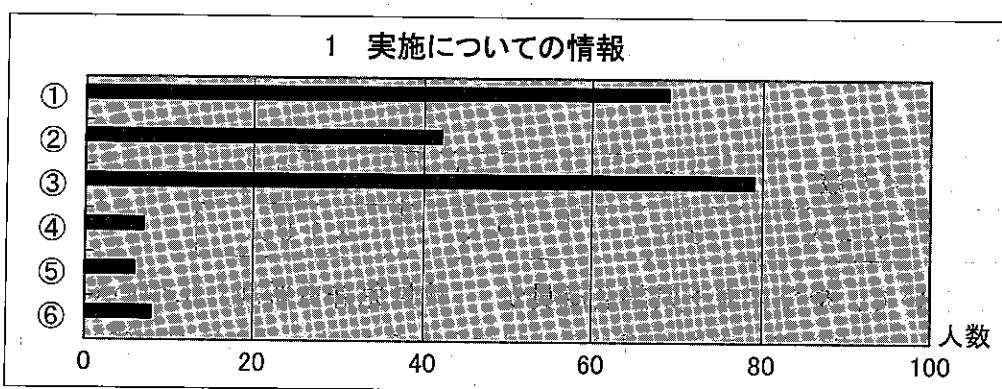
## I 「免許更新予備講習に関するアンケート調査」集約結果と分析

## &lt;集約結果と分析&gt;

## 1-1 免許状更新講習の予備講習の実施については、どのようにして情報を知りましたか。

(複数選択可) ・・・ 本年度受講できた方の回答

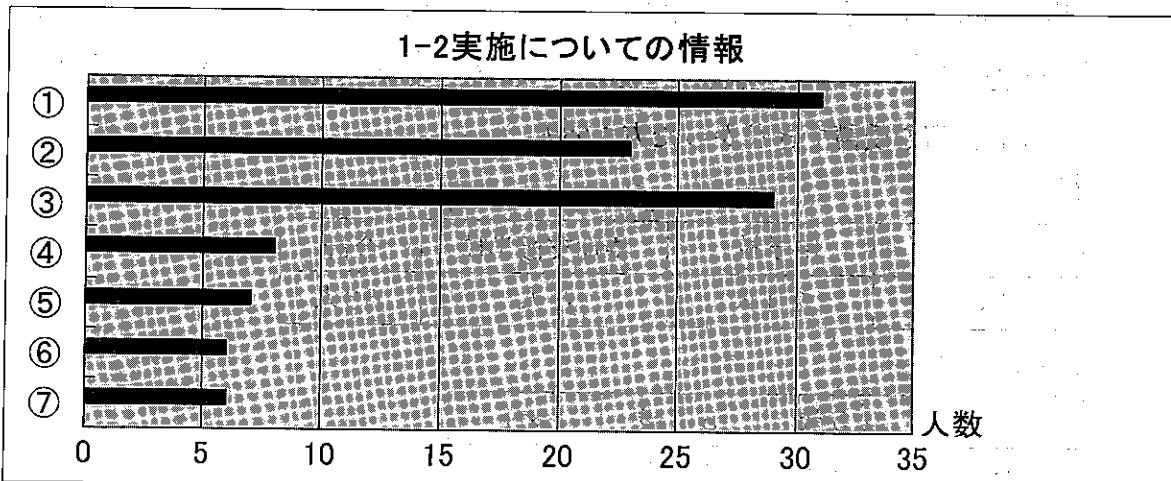
- 1) 5月に県教委が出した通知が、学校で広報されたから (45%)
- 2) 職場の同僚や友人等から聞いた (27%)
- 3) 管理職から聞いた (52%)
- 4) 鹿児島大学のホームページで知った (5%)
- 5) 組合の情報で知った (4%)
- 6) その他 (5%)



## 1-2 免許状更新講習の予備講習の実施については、どのようにして情報を知りましたか。

(複数選択可) ・・・ 本年度受講できなかった方の回答

- 1) 5月に県教委が出した通知が、学校で広報されたから (46%)
- 2) 職場の同僚や友人等から聞いた (34%)
- 3) 管理職から聞いた (42%)
- 4) 鹿児島大学のホームページで知った (12%)
- 5) 組合の情報で知った (10%)
- 6) その他 (9%)
- 7) 未記入 (9%)



## &lt;考察&gt;

予備講習の実施に関する情報については、「県教委の通知」の広報、「管理職からの情報提供」がなされていることが分かる。しかし、その他の記述欄に、「通知が遅く届いた(7月)」「自分がその対象者であることは、他校に勤務している知人から聞いた」などという声もある。また、本年度受講できなかった方の回答の中にも、「学校で広報されたが、とても遅くなつてから聞いた」「申込みが始まってから1週間ぐらいたつてから管理職に聞いた」などの声が、少数だがある。

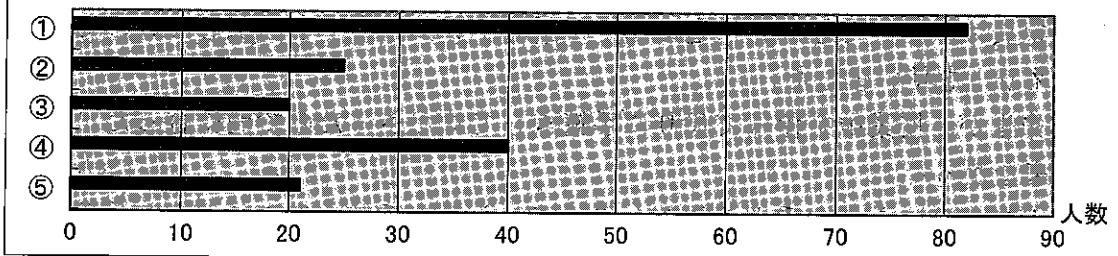
2-1とも関連するが、申込みの期日が決められている以上、周知についてについての遗漏がないように徹底しなければならない。「職場の同僚や友人等から聞いた」「鹿大のホームページで知った」「組合の情報で知った」という項目を選択した割合が、「受講できた方」より「受講できなかった方」の方が若干多い。申込みの受付開始日が5月26日(月)からで、しかも、人数制限のある科目については、「受講申込書を受理した順」という制限等があれば、なおさら、全ての学校において、管理職による通知の中身の詳細の説明と広報・周知の徹底を図らなければ混乱が生じる原因になる。

また、申込み開始後に申し込み方法の冊子が、現場に届いたという学校があるが、このようなことが、現場を混乱させる要因にもつながる。

## 2-1 鹿児島大学への予備講習の申し込み方法は、インターネットを通じて行われましたが、そのことについて答えてください。・・・本年度受講できた方の回答

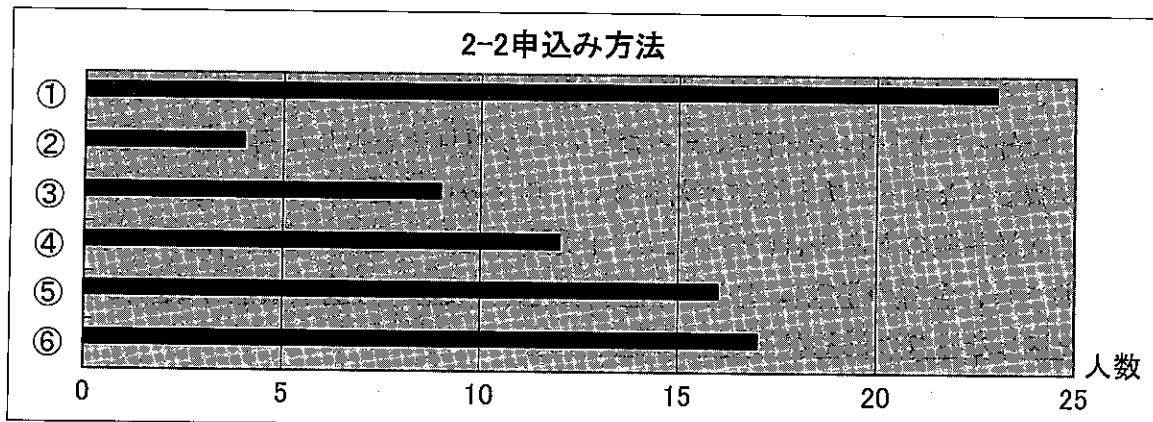
- 1) 面倒であった (54%)
- 2) 別に支障は無かった (16%)
- 3) 郵送などインターネット以外が良かった (13%)
- 4) 自分だけでは、申し込みができなかった (26%)
- 5) その他 (14%)

2-1申込み方法について



2-2 鹿児島大学への予備講習の申し込み方法は、インターネットを通じて行われましたが、そのことについて答えてください。・・・本年度受講できなかった方の回答

- 1) 面倒であった (34%)
- 2) 別に支障は無かった (6%)
- 3) 郵送などインターネット以外が良かった (13%)
- 4) 自分だけでは、申し込みができなかった (18%)
- 5) その他 (24%)
- 6) 未記入 (25%)



【他の欄に書かれた記述】

2-1 本年度受講できた方の記述

- ・ 家にインターネットがないので、職場のパソコンの前にはりついて必死で申し込みしました。なかなか大変でした。
- ・ 25日の夕方には、必修教科は満杯で申し込みなかった。勤務時間内に申し込みの方は、申し込みたようだ。
- ・ 広報されてからホームページを見たが、すでに受講できるものは少なかった。
- ・ インターネットで申し込み後、郵送書類もあり面倒な点が多くあった。
- ・ インターネットに慣れていない私は、とても負担でした
- ・ 申し込みの時間帯が仕事中で出遅れて、希望の場所で受けられなかった。
- ・ インターネットが自宅になかったため、夫の職場で申し込みをしました。(4の回答者)
- ・ 必修は定員オーバーでした。自宅は固定電話もインターネット回線もないで、学校のインターネットを使いました。
- ・ 専科の先生が、授業中を使って代りに手続きしてくださったので間に合った。そうでなければ出来なかった。
- ・ やり方が良く分からず、受理されたと思っていたが、手続きにミスがあり受理されなかつた講座もあった。
- ・ w e b 上の申し込みの後、即郵送しなければならないのが面倒だった。初めてだったので、写真の用意や校長印など大変だった。あと、募集後2・3日後にホームページを開いたら、ほとんど締め切られていてびっくりした。
- ・ 別に面倒ではなかったが、全員が受講できる体制をつくってほしい。
- ・ 受付状況がよくわかり、よい方法だったと思います。
- ・ 時間を問わずに申し込みできる点は便利だったが。

## 2-2 本年度受講できなかつた方の記述

- ・ 手続きでわからないところがあつた。
- ・ すでに申し込み多数で受け付けていないと聞き、やつていなかつた。また、そのインターネットをする時間がない。
- ・ 申込みを数人でしたが、最終的にアクセス不可で申し込めなかつた。
- ・ 締め切られていた。インターネットを利用しない方は、大変だと思います。(郵送の大学もあるそうですが)
- ・ パスワードが何度入れても通らず大変困つた。1時間も受講できなかつた。
- ・ ネットを開いた時には、もういっぱい(申し込み多数で閉じられていたようだ)で、詳しく見ることは出来なかつた。申し込み2日後。
- ・ 学校で広報されたとき(申込みをしようと思った時)は、すでにいっぱいだつた。
- ・ インターネットで申し込みをしなければならないということを知らずにいたため、申し込み2日目に鹿大に電話してはじめて知つた。インターネットでの申し込みとの事は、きちんと全員に知らせるべき。本校では、そのような説明はなかつた。
- ・ 見る前に定員をこえているとのことで見なかつた。
- ・ パソコンになれていないから申し込まなかつた。
- ・ 面倒だつたため予備講習を受けていません。

### <考察>

複数回答している方もいるが、インターネットによる申込みについて、「別に支障はなかつた」をはるかに上回り、半数を超える方が、「面倒であつた」と答えている。さらに、「自分だけでは、申込みができなかつた」と答えた割合も2割を超えていいる。

自由記述欄に書かれた内容を見ると、申込み受付当日に、鹿児島大学のWebに一斉に申込みが殺到したものと思われる。また、パソコンの扱いに不慣れな方は、職場の同僚の手伝いをもらって必至に手続きを行つたことがうかがえる。しかし、空き時間等を利用してできる環境にある方と、そうでない方の差があるようで、このような問題をどのようにしていくのか、今後の大きな課題ではないか。集約したアンケート用紙の年齢区分を見ると、年齢区分の若い方が、インターネットでの申し込みに対し、抵抗感が少ないと答えていいる。

本年度受講できなかつた方の自由記述では、やはり、広報の遅れによって、手続きが遅れて受け付けられなかつた方やパソコン操作にてまどつたことがうかがえる。

さらに、最初から、申込みをあきらめた方も少数ながらいることから、パソコン操作に不慣れな方や自分のアドレスを持っていない方に対しての学校でのサポート体制が必要である。

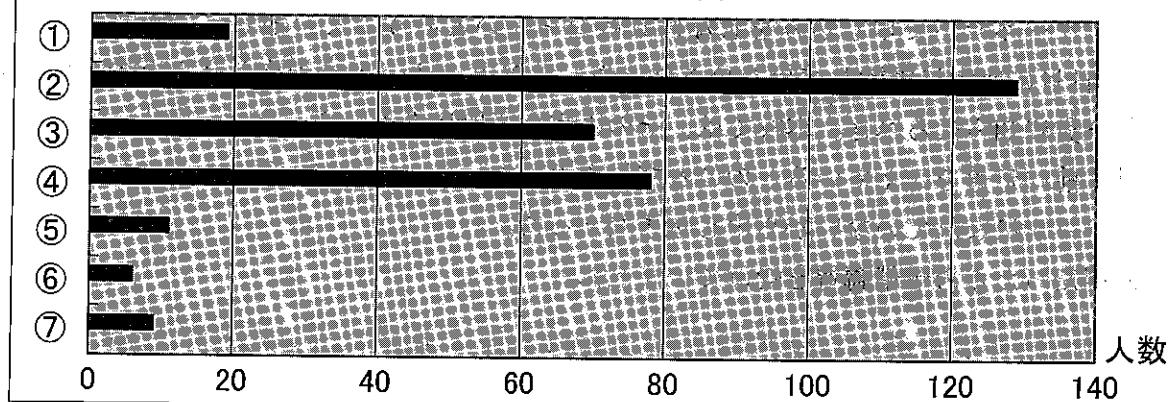
「郵送などインターネット以外がよかつた」という選択肢に対しては、受講できた方・できなかつた方ともに、1割を超える程度で、面倒ではあるが、「インターネットでの申し込みがベターだらう」という判断が働いているものと思われる。そうであれば、鹿児島大学側のシステムの問題として、課題解決を求めていかなければならない。

## 3 今回の予備講習を申し込んだ理由は、次のどれですか。(複数選択可)

## ・・・本年度受講できた方の回答

- 1) 本格実施の前にどのような講座があるのか知っておきたかったから (12%)
- 2) 予備講習の受講料が無料だったから (84%)
- 3) 早く受けたほうが有利だと感じたから (46%)
- 4) 本格実施されたとき、今回の予備講習の一部または全部が免除になるため (51%)
- 5) 10年目研修と重なりが出ると負担が大きくなると考えたから (7%)
- 6) 友人や管理職等に勧められたから (4%)
- 7) その他 (6%)
- 8) 未記入 (0)

3-1申込みをした理由



## 【その他の欄に書かれた記述】

- ・ 離島勤務なので不安を感じたから。来年度から本当に参加人数分確保してくれるか不安だから。
- ・ 早めにすませておきたかったが、この申し込む時期も非常に多忙で、家でインターネットをつなぐ時間さえなかった。
- ・ 受講したい講習内容であったため（現在の仕事内容と関連のあるもの）
- ・ 6年目研修と重なると大変だから。
- ・ 教員免許更新制度は、悪制度だと強く認識するので、本当にそうか体験するために受講しました。

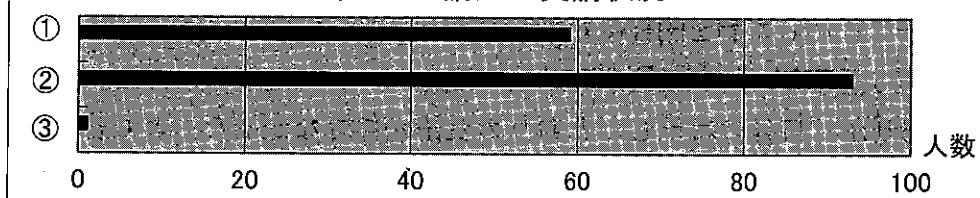
## &lt;考察&gt;

今回の予備講習申込みの動機は、「受講料が無料だから」を選択した方が8割を超え、「本格実施されたとき、今回の予備講習の一部または全部が免除になるため」を選択した方も約半数に上っている。制度そのものに対する不安もさることながら、現実問題として、県教委の通知には、「来年度からの受講料が有料、受講のための交通費・宿泊費や受講申請に係る郵送料等は、自己負担」と明記されていることによる不安や「今回無料なら」という焦りによるものと思われる。さらに、「早く受けたほうが有利だと感じたから」という選択肢も半数近くの方が選択していることから、更新講習がどのような内容なのか不透明な部分に対する焦りが、対象者の中にあったことがうかがえる。

## 4 自分が希望したとおりの講座の受講はできましたか。

- 1) できた (39%)
- 2) できなかった (61%)
- 3) 未記入 (1%)

4 希望した講座の受講状況



## 【希望した講座の受講ができなかった理由】

- ・ インターネット操作が不慣れで申し込みができなかった講座があった。
- ・ 希望する講座及びほとんどの開設講座が、すぐに定員となり予約もできなかったから。
- ・ 申し込みをするのが（方法が分からず手間だったため）遅くなり希望の講座への申し込み数が定員になっていた。
- ・ すぐにいっぱいになってしまい、受講できなかった。来年も同じようになると思うと不安だ。
- ・ 申し込みが勤務時間内の午前10時から行われたが、夕方5時に申し込んだら、必修を中心として定員いっぱいのものが多く受講できなかった。
- ・ 教科に関する講座の内容が、中学校の内容と全く関連がなかった（個人的な興味を引く講座もあった）
- ・ 選択も自分の今の学校種（特別支援学校）に関わる講座を受けたかったが、うまく都合が合わなかった。
- ・ 情報が入った教師は、すぐに登録できたようだが、私が登録しようとしたときには、希望した講座は全て埋まっていた。
- ・ 県教委が出した通知を手にした時は、申し込み受付が始まっておりほとんどの講座が定員に達していた。
- ・ 学校で管理職から話があった時点で、必修は締め切られており選択も可能なものが3つしかなく、その3つを選ばざるを得なかった。
- ・ 講座申し込み者数が多くて締め切られていた。講座日程が九州大会などと重なり受けられなかった。
- ・ 定員からもれたり、県大会の日程と重なって受講できなかった。

## &lt;考察&gt;

自由記述欄には、上記のような不満の声が、多数記述されている。カテゴリーで分けると以下のように分類される。

- ・鹿児島大学の受講定員を指摘する意見
- ・講習の申し込みに関する意見
- ・受講者のニーズに応じた講習開設に対する意見
- ・予備講習に関する広報や周知に関する意見

受講できた方の6割が、「自分の希望したとおりの受講ができなかつた」と回答している。予備講習ということで、受講定員が決められ、しかも、人数制限のある科目については、大学が「受講申し込み書を受理した順」という、いわゆる、「早い者勝ち！」であったためと思われる。「申し込んだが定員オーバーだった」という意見が多数あることから、大学側の開設科目・受講定員のキャパシティーの問題は、本格実施になった場合は、大学側がクリアしなければならない大きな課題であることが指摘できる。また、このことは、受講者側のニーズの問題とも関係している。学校種（小学校・中学校・高等学校・特別支援学校）・職種（教諭・養護教諭・栄養教諭）・免許の種類（専門教科等）・本人の職場環境（担任・免許外教科担当・公務分掌等）・本人の興味関心等により、受講者のニーズは、かなり幅広くなると思われる。そのようなニーズを大学や県教委が、予備講習を通してどれくらい把握したかは不明であるが、仮に把握したとしても、大学において、それらのニーズに応じた科目の開設と人員の配置をカバーすることは、おそらく無理だと思われる。育児休業中で、予備講習の情報が的確につかめなかったという方が、「私は小学校です。高校（商業・水産学）の講義しか空いていなくて、仕方なく受講しました。全くの専門外で、かなり戸惑いました」と記述している。他にも、「ネット上で定員オーバーとなり、代わりに他の講座を受けた」「何度も問い合わせたが、申し込みは無理だった」というような意見も多数ある。これらの課題は、本格実施しても課題解決できないのではないか。ニーズにあった科目を受けるためには、受講者の自己責任において、鹿児島大学以外の講習開設大学等を探して、必修（12時間は同じ大学等）あるいは、選択科目18時間を細切れに申し込むことになるだろう。

一方で、4割に近い方々は、「自分の希望したとおりの講座の受講ができた」と答えている。しかし、この方々は、今回、“タッチの差”で先着順の定員枠に入り込めた方々である。今回たまたま“幸運”だっただけである。自由記述欄の「授業に空きのない担任は応募困難だった」「授業等の間の手続きとなつたため受付が終了していた」「申し込み開始と同時に鹿大につながりにくく、ほんの数時間で希望する講座の定員が埋まった」などの指摘からもうかがえる。鹿児島大学は、予備講習の科目開設にあたって公表した事業の概要で「全学部によるとりくみで約90講座を開設する」として受け入れをしたが、現状は、受講者の不満の声が大きいといえる。

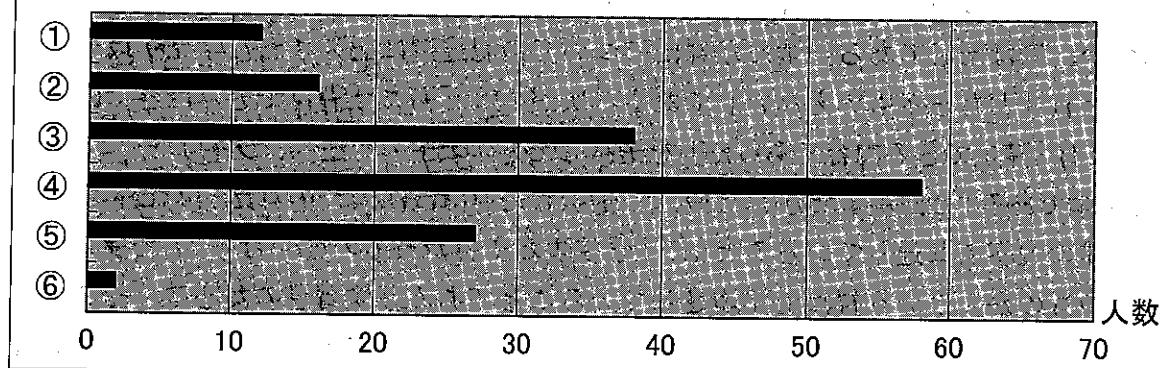
以上のようなことから考えると、どのような申し込み方法であっても、おそらく、国会での法案に対する付帯決議にあるような、「・・・受講者のニーズの反映に努めること。また、多様な講習内容、講習方法の中から受講者が選択できるような工夫を講ずること。」は、講習開設機関にとっては、かなり困難な課題であるといわざるを得ない。

## 5 予備講習の実際についてお尋ねします。

(1) あなたが受講されたのは、必修と選択どちらを受けましたか。

- 1) 必修(12時間)だけを受講した(8%)
- 2) 選択(18時間)のすべてを受講した(10%)
- 3) 選択の一部だけを受講した(25%)
- 4) 必修と選択(18時間)全てを受講した(38%)
- 5) 必修と選択の一部を受講した(18%)
- 6) 未記入(1%)

5-(1) 予備講習の受講状況



### <考察>

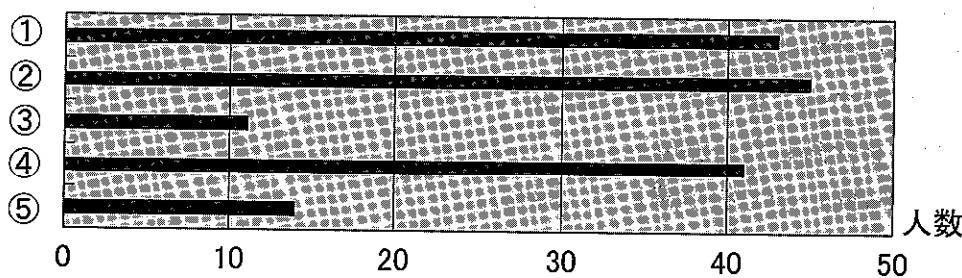
設問4の「自分が希望したとおりの講座の受講はできたか」とも関連があると思われるが、「必修と選択全てを受講」した方の割合は、約4割である。設問4で「自分が希望した講座を受講できた」と答えた方も約4割であることから、今回の予備講習受講希望者の多くが、できることなら、必修と選択の全て(30時間)の受講を希望していたのではないかと推測される。幸運にも「必修と選択の全てを受講した」方は、「希望通りに受講できた」と感じているものと思われる。

それにしても、「必修と選択(30時間)全て受講した」方が、153名中58名(およそ4割)というのは、予備講習段階としての割合としては、多いのではないかと思われるが、本格実施になった場合は、「ラッキーだった」ではすまない問題である。確実に、希望した全ての方が2年間で必ず受講できる態勢を、大学側および県教委は整えなければならないし、受講者に保障しなければならないはずである。これが、もしできなければ、法整備として不十分なまま見切り発車したことへの批判が起こることは間違いない。受講する機会が得られないということは、「失職」という身分に関わる重要な問題である。

(2) 受講された講座の内容について答えてください

- 1) 満足できる内容であった(28%)
- 2) あまり満足できる内容ではない(29%)
- 3) 不満である(7%)
- 4) どちらともいえない。(26%)
- 5) 未記入(9%)

## 5-(2)受講講座の満足度



## &lt;考察&gt;

講座の内容についての評価は、「満足できる」「満足できない」「どちらともいえない」の割合が、ほぼ同じである。選んだ理由についての記述欄に記入された意見が最も多かったのは、4)「どちらともいえない」である。次が、2)「あまり満足できる内容ではない」であり、1)「満足できる内容であった」を選択した方の理由の記述は、少なかった。ちなみに、3)「不満である」と回答した方は、11人で、選択した理由には、2つの意見しか記述はなかった。

記述の内容で共通していることは、「学校現場で生かせる内容かどうか」「授業にすぐに役立つものか」という視点で記述されていることである。受講者の関心は、そのところに大きなウエイトが置かれているようで、そのことについての視点から満足度の評価をしているようである。

文科省は、この制度の目的を「教員免許更新制は、その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう、定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち社会の尊敬と信頼を得ることを目指すものです」としている。また、第166回通常国会の中で、文科省は次のような見解を示している。(07/5/31参・文教科学委員会)

「免許更新講習において取り扱うこととなる最新の知識ということでございますが、例えば、子供理解や教育方法、教育の技術に関する最新の知識、各教科や道徳、特別活動等の指導法に関する最新の知識、キャリア教育やカウンセリング法などに関する最新の知識、対人関係や学級経営などに関する最新の知識等が考えられるところでございます」としている。教員養成課程の教育学部であれば、このような内容を講座の科目として設定することは可能だろうが、他の学部においては、やはり、アカデミックな内容になるのではないか。また、大学側としても、「その時々で教員として必要な資質能力が保持されるような最新の知識技能」とはいかなるものか、また「これらを身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち社会の尊敬と信頼を得る」講座内容はどのようなもので、「身についたかどうか」の判断・認定は、どのような試験を行い個々の受講者に評価をするのか、確定していないはずである。本格実施された後もこの課題解決は難しい。教員の側からすると、どうせ受講するのであれば、「自分のためになるもの」「授業や子どもたちに還元できる内容」「すぐに役立つ内容」という視点で講座に期待しているのであれば、大学側と受講者の間に齟齬が生じるのは、当然のことである。「受講者のニーズの反映に努めること」は、大学側にとって、講座を受け持つ担当教員専門分野の問題、学校現場の教員が求める教科・道徳・特別活動等に関する「最新の知識」にあたる講義内容の準備などが求められているということだが、これらの問題をクリアするのは、おそらく難しいことである。

教員が、多忙化の中で夏季休業中や土・日を使って、大学まで出かけて講座を受講するのであれば、たとえ、個人の資格の問題といわれても、「学校で役立つ内容・子どもたちの授業に生かせる内容」を求めるというのは、健全な志向である。全ての教員が、自分の課題意識のもとに研修の時間が保障されるのであれば、研修意識の質も高まるはずである。大学での講座に対して、「不満である」との評価は少ないことは、「大学で学ぶこと」あるいは「大学での研修」ということについては、肯定的な評価をしていることもうかがえる。受講講座の満足度については、この制度に対する受講する教員の意識の問題にも影響されるだろうし、年齢区分(35歳・45歳・55歳)による世代間の意識の違いも関係してくると思われるが、ここについては、今後、クロス集計などでの分析が必要になると思われる。

以下は、記述された意見の特徴的なものである。

#### 4) 「どちらともいえない」と評価した方の意見

- ・ 今後の教科活動に大変役立つものとあまり必要でないものがあったから。
- ・ 個人的には、興味深い講習であったが、教育現場では生かせることはほとんどないため。
- ・ 選択の多くが教科に関する内容であり、生徒指導等の講座がなかった。
- ・ 自分が学びたいこととそうでないものや深まりがほしいものなどまちまちだった。
- ・ 即実践につながるものは満足したが、理論的なものはいまいちだった。
- ・ 教科によって職場と無関係なものやあまりにも難しすぎて困惑した。
- ・ 全く普段の授業に生かせるものではないものがあった。それを受講する意味が分からなかった。
- ・ 内容よりテストに出る部分しか頭に入らず、せっかくの講義も内容を深めて考えることよりテストに視点がいったのが本音。
- ・ 内容は悪くなかったが、この程度のものだったら日頃の短研や研修などでも十分であると感じた。
- ・ 理論が多く、レベルが高かった

#### 2) 「あまり満足できる内容ではない」と評価した方の意見

- ・ 講座内容が専門的すぎた。実際の現場で生かすには厳しい。
- ・ 希望した講座ではなかったこともあるが、内容が大学の授業のようであり現場に還元できないものだった。
- ・ 講座内容は学校現場で生かせるものではなかった。学校現場で勤務経験のない大学の先生たちは講座を行なってあまり今後に生かせない。
- ・ 必修は意味があると今回は感じたが、選択については、全く意味がないと感じた。
- ・ これからの教員生活に活かせるものとはいえない内容もあった。
- ・ 申し込み時期も遅れ、残っている講座だったから。
- ・ テストがあるのが気がかりだったが、こちらの負担がない（感想を書くなど）ようにしてあった講座もあった。今後もそういう方向で実施してほしい。

(3) 予備講習の多くが、夏季休業中や土曜・日曜・お盆の期間に開設されました。それについて、あなたのご意見を書いてください。 (開設時期の問題)

<考察>

この設問に対して、多くの意見が寄せられたが、以下のような意見に大別できる。

- ・ 夏季休業中に実施することは、仕方がないと考える。
- ・ 受け入れ側の大学の都合もあるので、土・日でも仕方がない。
- ・ お盆の期間は、食堂や駐車場、家庭の都合など考慮して、実施してほしくない。
- ・ 平常が忙しいなかで、土・日の実施は、精神的にも肉体的にもきついから、外してほしい。  
学校の現状を考えると、やはり、長期休業中（本格実施になった場合は、夏季・冬季）  
が主になると思われるが、寄せられた意見の中にも、30時間の受講のために、よりいっそ  
う多忙化と負担感、自主的研修の制約が、かなり生じているという指摘がなされている。  
また、講義を行なう大学教員の研究活動にも大きな制約が出てくることになる。

以下は、記述された意見の特徴的なものである。

- ・ 夏季休業中はまだしも、土・日はどうかと思う。30時間受講となるとやむをえないかもしれない。
- ・ 平日は授業があり、参加しにくいので、この方法でやるしかないと思う。
- ・ 夏休み中に集中的にあったので、同僚に気がねなく講習に参加できて楽しかった。
- ・ 大学の方も大変だったと思います。教授・教職員の休暇まで割かなければいけないのはおかしいです。
- ・ 何度も鹿児島市まで通わなければならず、また、土・日の分は研修もとれず慌しい夏休みだった。自分のことがあまりできなかった。
- ・ 学級担任だと仕方がないとしか言えない。
- ・ 夏休み期間中ほとんどの週に講習があり、夏季休業の計画が立てにくかった。休業中にあった希望する研修会にも参加できなかった。
- ・ お盆の受講であったが、駐車場も開放されず、食堂も休みで非常に受講しづらかった。
- ・ 部活の県大会と日程が重なるため必修の受講が難しい。
- ・ 必修が連続して実施されなかつたので、離島からの受講は費用がかかる。9月に入ってからの研修は、夏季休業中の7/22～8/26までの間に、とびとびで計7日間鹿大に通うことになりました。もっと日程がつまって集中的に講習があればよかったです。
- ・ 負担が大きく、他の自主的な研修会にはほとんど参加できなかった。
- ・ 小規模校のため、各種部会（教科研修会、担当者会）や代表出勤も多く、免許法認定講習とも重なったため、せっかくの夏休みが、「多忙感」を感じた。お盆は、さけてほしかった（大学の講師の方にも悪いと思った）

**6 今回予備講習を受講された感想を書いてください。(何でも結構です!)****<考察>**

予備講習を受講した感想を尋ねた。自由記述を求めたところ、講習内容・日程・会場の問題・評価のためのテスト・定員など特徴的な意見が記述されている。記述された内容を検討し、いくつかのカテゴリーに分けて分類した。特徴的なものを以下に紹介する。

**① 今回の予備講習に対する肯定的な意見と否定的な意見の特徴的なもの**

- (肯) 「最近の教育事情を知ることができてよかったです。改めて勉強することの大切さが分かった。会場での配慮もしてくださり、気持ちよく受講できた。」
- (肯) 「大学の先生の話を聞く機会はあまりないので意外とおもしろかったです。」
- (肯) 「今年は、12時間分だけを受講した。講義は、日々の授業に即生かせるというものがかなりではなかったが、教養を深めるという意味では興味深い内容であった。」
- (否) 「形式的な内容でこれから教職を続けていく上で役に立つ内容とは思えなかった。」
- (否) 「特にためになったとは思えない。自ら進んで受けた内容というよりは、定員に空きがあるところだったので。」
- (否) 「意味を感じなかった。とらざるを得なかったので、受講した感がある。内容的にあまり意味があるとは思わなかった。」
- (否) 養護教諭の選択講座が充実しておらず、また、日程が8月の前半・後半の各半日だったため、離島からの参加が難しく、まとめて受講できる他県を希望しました。実技以外では、講義を聞くという内容だったので、受身的に感じ、期待していたほど満足感を得ることはできませんでした。

**② 予備講習の内容に関する意見の特徴的なもの（テストに関して）**

- ・ 講習を終えて、すぐにテストという科目もあったので、せめて5分ぐらいは資料を見直す時間がほしかった。
- ・ 講習 자체は興味深いものであったが、その後、直後のテストをするというのは「どういうものだろうか？」と疑問に思う。
- ・ とても勉強になったが、果たしてテストに何の意義があるのか分かりませんでした。

**③ 講座内容に関する意見の特徴的なもの**

- ・ 近年の教育改革の動向や学習指導要領改訂も大変勉強になりましたが、職種が養護教諭という私たちにおいては、保健室登校や不登校などの対応について学習できればいいなと思います。
- ・ 大学側へ文科省からかなり細かい指示があったようですが、教授によっては、あまりこだわらず講習をひらいてくださったようで興味深い内容でした。しかし、今年の予備講習をもとに一層厳しい指示がされてくると本当につまらない研修になりそうです。（テーマを見るとすごい「教職の使命と役割」とか）
- ・ 実際の授業に役立つ内容もあったが、そうでないものもあり、もっと実践的な講習にしてほしいと思った。
- ・ せっかく受けるからには、自分の指導力向上に役立てたいと思うので、現場のニーズに合った内容を工夫してほしい。

- 講師によって内容の差が大きく、大変興味深くこれからの授業か自らのスキルアップに生かせるものもある反面、以前大学で受けた講義となんら変わらない、理解するにはかなり困難なものもあった。

④ 予備講習の日程に関する意見の特徴的なもの

- 選択（18時間）を3日間で受講したが1日は朝9時～19時までの日程があり、かなり疲れた。
- 鹿大の教授の都合で仕方ないと思うが、受講日が8/20午後から、8/27一日、9/6午後から、9/27一日と、飛び飛びになっていたので夏休み中の計画がいろいろと立てられなかった。
- 午前と午後と別々の講座が重なり1日受講する時、あいだに時間がなかった。（12：30に終わり13：00に次が開始）

⑤ 予備講習の講座の定員に関する意見の特徴的なもの

- 鹿児島市内では、ほとんどの講座で定員オーバー、希望通りに受講できない方が多かったと思われる。種子島会場の必修受講者の半数が、島外の方だったことに驚いた。
- 教科等について、もっと人数や回数に幅もたせて受講者の希望に応えてほしい。
- 必修は、4つの講座をすべてうけないといけないということであった。一つ都合の悪い日程があり、今年度は見送った。受け入れ体制がとても窮屈であった。日程も。
- 30時間受講しなければならないのに対しては、講座数・定員が少ないとと思う。

⑥ 予備講習の会場に関する意見の特徴的なもの

- 離島で開催される選択講習を増やしてほしい。自分の教科の講習が奄美ではなかったので…
- 離島なので来年度から2年間で受講するとなると何度も鹿児島大学へ足を運ばなければならず、金銭的に大変。夫婦とも対象なので、その間、幼児の託児場所を考えると不安（鹿児島へ連れて行ってどこかにあずけるか？）
- とにかく会場（鹿児島大学）が遠いことと、鹿児島大学のキャンパス内に駐車場がないため周辺の駐車場に停めることになったが、費用の問題だけでなく、その駐車場の数が不足していて困っていた方たちもいたようだ。
- 駐車場が校内に停められなかったので、かなりお金がかかった。

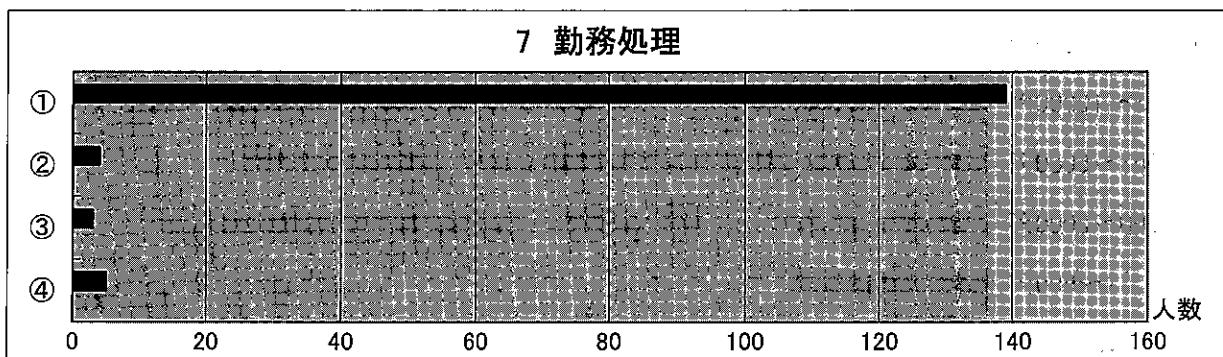
⑦ 予備講習の申し込みに関する意見の特徴的なもの

- 当初のIDなどの手続きが、うまくいかずに苦労した。予備講習なのにあわてて受けてしまったという気がする。
- 説明もなしにいきなりインターネットでの申し込み…。受講の申し込みすらできませんでした。しかし、2科目ゆずっていただいて受講することができました。このような制度ができるなら全員受講できるようにすべきです。（例え試験的に今回実施するとしても）また、必ず自分が選択した科目を受講させてほしい。また、予備講習ということで仕方ないかもしれないが、希望しても参加できないということがあり不満が残る。（鹿児島の場合は、先着順ということで…）

- 今回、周知が遅れたりインターネットでの申し込み開始が勤務時間内だったりで、申し込みができなかつた方が多かった。受けなければならぬのに、申し込みができない状態はよくないと思う。また、申し込み手続き、連絡があまりよくなかった。特に、決定連絡が1週間前ぐらいであった。
- インターネットでダウンロード、申し込みと、わざわざわしかった。

7 勤務処理について、県教委は「研修」としていますが、現場での混乱はありませんでしたか。

- 研修で認められた (91%)
- 研修以外の勤務処理→ 年休・出張・特休・別勤 \*○印を！ (3%)
- 勤務処理でトラブルがあった(例えば、午前中は学校に出勤して午後だけ研修など) (2%)
- 未記入 (3%)



**<考察>**

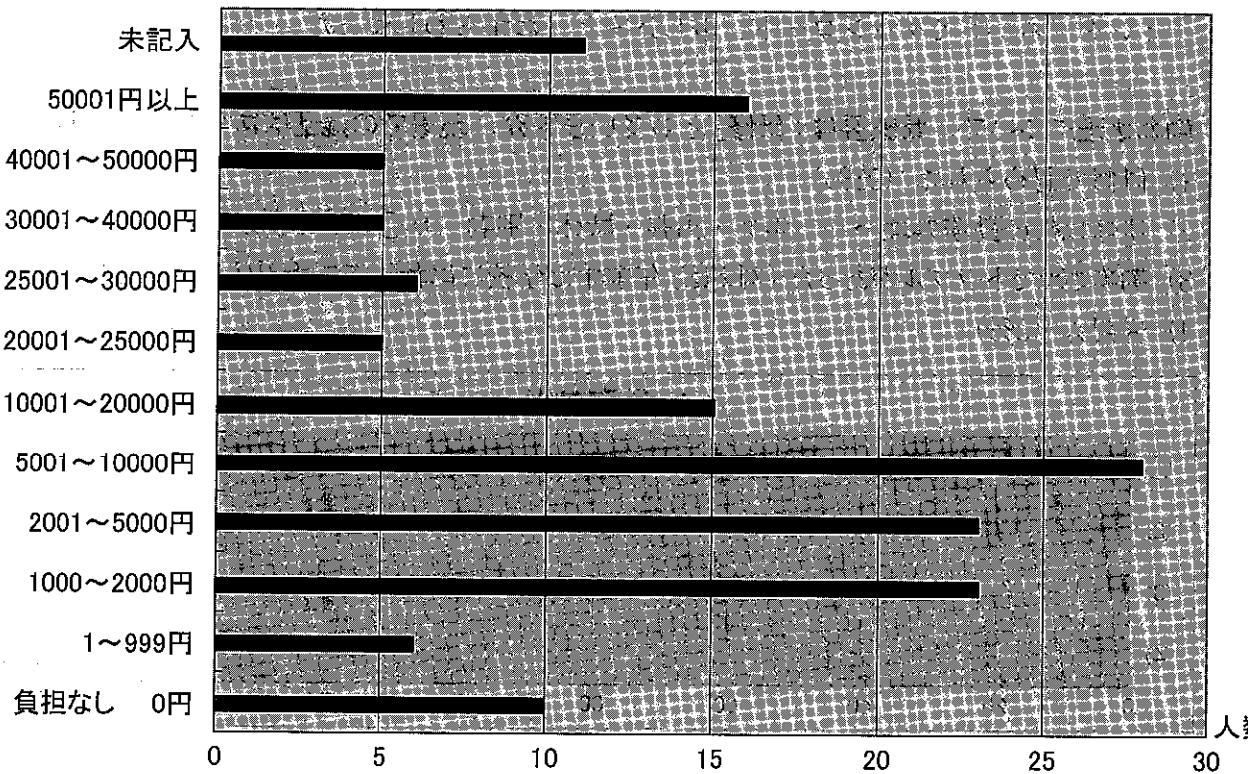
勤務処理については、9割を超える割合で、「研修」で処理している。しかし、中には、「午前中は学校に出勤して午後だけ研修」とか「大学に設定されている時間帯だけ『研修』を認め『午後は研修報告を書けないでしまう』と言われ、午後から年休にしたこともあった」などが、少數あった。また、「研修だったので毎回報告書を提出！受講の度に試験を受けたのにできれば免除してほしい」「トラブルではないが、研修にすると報告書作成が待っているので、年休処理にした」と夏季休業中の研修計画・報告と全く同じ扱いで、研修報告書の提出を強要している管理職も見られる。説明責任というが、誰がみても教員免許更新講習を受講しているのは明らかである。このようなことでは、講座を受講する意欲すら減退してしまう。

今後、県教委と研修処理の方法については、事務手続き等の精選との関わりの中で整理していく必要がある。

## 8 予備講習参加のためにかかる費用について答えてください。

(講習会場へ行くための交通費や宿泊費等の総額を概算で書いてください。)

## 8 講習に関する費用



## &lt;考察&gt;

設問3の回答を見ても分かるように、予備講習を受講した方の申込みの理由の中で、最も多く選択したのが、「予備講習の受講料が無料だったから」で、8割を超えている。個人の費用負担については、講習料が3万円程度かかるのではないかということが、国会論議の中でもあったが、文科省も大学側も示していない中で出てきたことである。また、5月に県教委が出した通知に、予備講習に係る費用について、「予備講習の受講料は不要です（更新講習は有料）。ただし、受講のための交通費・宿泊費や受講申請に係る郵送料等は、自己負担となります」とあることから、「受講料が無料の今回、申し込んだほうがいい」「できるところなら、予備講習で全て（選択・必修合わせて30時間）受講したほうが、負担軽減になる」と思うのは当然のことで、個人負担に対する不安や焦りが大きかったものと思われる。今回は、鹿児島大学1校のみの開設で受講希望者も殺到して、希望したが受けられなかった方も多く、他県まで出かけたという方もいた。鹿児島大学で受講できなかつた方の中には、わざわざ、離島（奄美大島と種子島の2会場）での会場に出かけた方もいた。

受講料については、来年度に向けての文科省予算がどれほどになるか確定しない段階で、大学側も未確定で、鹿児島大学においては、予備講習と同様に離島での講習開設となると、講師の旅費等の問題もあり、大きな負担感をもっている。（5/30…鹿児島大学回答：大学として、独立採算となると1時間単価で授業料を検討せざるをえないが、文科省の検討結果を見ながら決定していくことになる。）

仮に一人3万円の受講料とした場合、全国で年間10万人の受講者が見込まれているため、30億円の予算が必要になってくる。文科省は2009年度予算要求で、約46億円8千万円の概算要求を行っているが、これもどのようになるか今のところ全く不透明である。今回のアンケート調査でも、5万円を超える自己負担があったと答えた方が、153名中16人(1割)もいた。この中には、10万円を超える方が、数名含まれている。県外の大学で受けた方や離島と鹿児島大学で受けたという方である。

「教員免許は個人の資格であることから、個人負担」とされているが、受講料の他に、交通費・宿泊費等の自己負担は、同じ県内でも勤務地・居住地によって受講条件が違ってくる。とりわけ、鹿児島や沖縄・長崎など離島やへき地が多い県では、勤務地によって自己負担の不公平感は、大きな問題である。

アンケート調査によると、次のような事例が指摘されている。奄美大島の出張講座でいうと会場に近い学校の33歳の教員は、特に費用はかからなかったと答えているのに対し、選択の一部を受けた方は、5千円かかったという方もいる。同じ奄美大島でも海上タクシーに乗りつぎ、バスで会場まで1時間かかる場所もある。奄美大島の出張講座に外れた方の中に、本土の鹿児島大学で受講した43歳の教員は、選択の一部を受講するのに、5万円かかったと答えている。船で行くと、夜の9時半の船に乗り、翌朝8時ごろに船が着く。1講座受講するのに、行き帰り2泊は船の中、3日がかりになり、往復運賃だけで2万3千円かかる。また、飛行機を使うと、往復運賃が、4万円を超える。大学までのバス代等で、4万5千円、前泊・後泊のホテル代を含めると、6万円ぐらいになる。講座の期日が、連続であればいいが、ほとんど連続ではない。いったん島に帰って、再度の受講となると、その倍の出費になる。

奄美大島より鹿児島島に近い位置にある種子島の43歳の教員は、必修と選択の全て30時間を受講できたそうだが、7回の往復船賃と宿泊費で7万円かかったと報告している。奄美大島よりさらに南にある、徳之島・沖永良部・与論から名瀬会場や鹿児島大学に行くとなると交通費は、更にかかる。このように、離島は、時間や費用面から大きな負担となる。

制度「改正」に伴う国会での付帯決議の中に、「国公私立のすべての教員の免許状更新講習の受講に伴う費用負担を軽減するため、受講者の講習受講費用負担も含めて、国による支援策を検討する」「へき地等に勤務する教員や障がいを有する教員が、多様な免許状更新講習を受講できるよう努めること」とあるが、6月に民主党の高井美穂議員の質問主意書への回答で政府が、「へき地その他地方に勤務する教育職員を含め、その居住地の違いにかかわらず受講機会が十分に確保されるように努めてまいりたい」との回答を示している。

しかし、出張講座や通信・放送大学等で受講機会を増やすとしているが、具体策は、まったく明らかになっていない。

鹿児島は、多くの離島・へき地があるが、多くが複式学級であったり中学校の免許外教科を担当したりしている方も多い。その中で、離島の教育に必死にとりくんでいる。更新講習を受ける前の年齢になると、おそらく、離島へき地への希望者は、減るだろう。こうなると、人事異動への影響も出てくることが考えられる。

今回の自己負担の実態でも明らかなように、地理的条件・勤務場所によって自己負担の不公平感は、はなはだ大きい。これは、受講機会の不平等である。更新講習に係る自己負担の問題だけみても制度の不備といわざるを得ない。同じ地区に勤務しながら、居住地

の違いや同地区内でも交通事情・道路事情等の条件の違いで、自己負担に大きな格差が生じている。

また、今回、受講料が無料ということで、奄美・熊毛会場、あるいは、他県まで出かけ無理して受講した方も見られる。また、「10年研と重なると大変であると考えたから」という方もいた。

昨年から、新たに賃金の6%カットが行なわれているなか(2%カット4年続いた後に、さらに1年継続)、自分たちが望まぬ制度が強制され、しかも、自己負担を強いられ、勤務地によって負担に格差が生ずるなど、とても、更新講習に対する自己啓発や研修意欲が高まるとは思えない。

以下は、勤務地と受講会場、それに伴う費用についての回答から、特徴的なものをあげる。

勤務地	年齢区分	受講会場	自己負担額	受講内容	備 考
姶良・小	45	鹿大+種子島	4万円	(必修と選択の一部)	
姶良・小	45		2千円	(必修と選択全て)	
姶良・小	45		2万円	(必修と選択全て)	
姶良・小	55		1千6百円	(必修と選択の一部)	
姶良・小	45	鹿大+種子島+奄美	15万円	(必修と選択全て)	
姶良・小	45	鹿大+奄美	10万円	(必修と選択の一部)	
肝属・特	45	鹿大+奄美	6万円	(必修と選択全て)	
肝属・特	35	鹿大	5千円	(選択の全て)	
肝属・中	35	鹿大	1万円	(必修と選択の一部)	
肝属・小	45	他県	12万円		
肝属・小	35	鹿大	4万円	(必修と選択全て)	
鹿児島・小	35	鹿大	0円	(必修と選択全て)	
鹿児島・中	35	鹿大	320円	(必修と選択全て)	
鹿児島・小	45	鹿大	8千円	(必修と選択全て)	
鹿児島・小	45	鹿大	2千5百円	(必修と選択全て)	市電×2×7日
鹿児島・小	35	鹿大+奄美	6万円	(必修と選択の一部)	
鹿児島・小	35	鹿大+奄美	7万円	(必修と選択全て)	
鹿児島・小	35	鹿大+種子	9千円	(選択の一部だけ)	
奄美・中	35	鹿大	4万円	(選択の全て)	
奄美・中	35	奄美+種	7万円	(選択の全て)	
奄美・中	35	奄美	5千円	(選択の一部だけ)	
奄美・中	45	奄美	2万5千円	(選択の一部)	知名～奄美(3泊)
奄美・小	45	鹿大	5万円	(選択の一部)	
奄美・小	35	他県	5万円	(選択の一部だけ)	養護選択講座が充実
奄美・中	35	鹿大+他県	7万8千5百円	(必修と選択全て)	
熊毛・小	35	種子島	0円	(必修と選択の一部)	自宅から1km以内に会場があったため
熊毛・小	55	種子島+他県	10万円	(必修と選択全て)	
熊毛・小	45	鹿大	7万円	(必修と選択全て)	
熊毛・小	35	鹿大+種子島	1万円	(選択の一部)	
熊毛・小	55	鹿大+奄美+種子島	12万円	(必修と選択の全て)	
曾於・中	35	鹿大+奄美	8万円	(必修と選択全て)	
曾於・小	45	鹿大	2千円	(選択の一部)	

曾於・小	55	鹿大	2万	(必修と選択全て)	
曾於・中	55	種子島	5万	(必修と選択の一部)	
川薩・中	35	鹿大	1万4千	(必修と選択全て)	
川薩・中	45	鹿大	7千5百円	(必修と選択全て)	
川薩・中	35	鹿大+奄美	3万	(必修と選択全て)	
川薩・中	45	鹿大	2千円	(選択の一部)	
川薩・小	45	鹿大+他県	8万円	(必修と選択全て)	
南薩・中	45	鹿大	2千円	(必修と選択の一部)	
南薩・中	45	奄美+種子島	7万円	(選択の全て)	
南薩・中	55	鹿大	2万4千円	(必修と選択全て)	
南薩・中	35	鹿大+種子島	3万円	(必修と選択の一部)	
南薩・中	35	鹿大	360円	(選択の全て)	

9 1975年(昭和50年)4月2日から1976年(昭和51年)4月1日生まれの方については、10年目研修が免許更新講習と重なる方も出てくることが予想されます。そのことについて、該当の方は、問題点や課題がありましたら書いてください。

#### <考察>

10年自研修と重なりが出てくると思われる方の意識を検討するための設問であるが、「大変でしょうが重なってもそれをレポート等に生かせるのでは・・・など、プラスに考えていいけばよいのではないでしょうか」という特に問題と感じないという意見が、ごく少数ある。

しかし、ほとんどの方から、「10年経験者研と免許更新が重なるのは、非常に負担に思っています。どうにか単位(時数)の振替ができるようにしてほしい」「重なれば負担も大きく学校での仕事に支障ができると思う」「同じような内容の講義になるのではないだろうか」など、重なった場合の不安の意見が述べられている。なかには、10年研ではなく採用の関係で、6年目研修(ステップアップ研修)と重なっているという指摘も数人からあった。

文科省は、10年目研修の日程を5日程度短縮し、日数や負担の増加を押さえているが、現在行なわれている10年目研修の弊害は、多忙化や小規模校における公務分掌との関係など多くの問題や課題が指摘されている。「10年目研修と免許更新と重複した日程の場合どちらを優先させるのか?」という指摘があるよう、5日程度短縮したからといって、このような課題をクリアすることには、全くつながらないことは明らかである。そもそも10年目研修は、「教員免許更新制を導入しない」代わりに、それが制度化された経緯があるだけに、今回の免許更新制度を導入すること自体、整合性のないといえる。

該当者の声に、「似たようなことをやることに意味がない。もう少し、教育委員会や文科省は思いつきでなく考えてやってほしい。机上の理論ばかりである行政の人間も現場の最前線に立てば考えが変わるので?」とあるが、この苦言も当たり前である。

#### 10 自由記述欄にみる教員の「教員免許更新制度」に対する意識の分析

##### <分析>

アンケート調査の最後に、「来年4月1日から本格実施される予定ですが、教員免許更新制度について、あなたの考えを聞かせてください。(自由記述)」という項を設けた。これは、

今回、「予備講習を実際に受講した方と受講を希望したが受講できなかった方(2009年4月からの制度実施にともない最初の該当者)」が、この制度に対してどのような意識を持っているのか、あるいは、何を課題としてあげているかを検討するために設けたものである。

アンケート調査に協力してもらった方々のほとんどが、自由記述欄に記入しており、その多くが、「教員免許更新制度」に対する不満や不安、負担感について述べている。この制度に対して全面的に肯定する記述は、ごく少数である。比較的肯定的に捉えていると思われる意見の中にも、「負担が増えないように」「不公平がないように」「評価テストの必要性に疑問」「受講者のニーズに応じた講座内容を求める」など、制度設計に対する要望が述べてある。

また、今回受講できなかった方の意見の中では、「制度そのものに反対する意見」の他に、「予備講習の説明不足」「広報の周知のあり方」「大学側の受け入れ態勢への不満」などを指摘する意見が多い。

以下に記述された内容で特徴的な意見をいくつか紹介する。

#### ① 制度に対する不満や不安、否定的意見

- ・ 最新の教育事情の習得が必要であれば、今までにいろいろな講習会等で研修をしてきていました。講習内容も今まで受けてきた講習とあまりかわらず、本当にこの制度が必要なのかなと腹が立ちます。おまけに、この財政難に何億の予算をかけ、本当に税金の無駄づかいだと思う。これだけの予算があるなら他にする事が、いっぱいある。この制度は不適格者を出すものではないと文科省は言っているが評価テストがあること自体おかしい。この講習を受けて認定されなければどうなの?何もかもがインターネットで処理され、現場ではメールを見る暇もない。
- ・ 管理職が受けなくても良いというのは、非常に疑問に覚える。彼らに免許はないのか?申請だけで済むのなら、くだらない考えをもつ管理職は減らない! (怒り!)
- ・ 現場の先生方が、きっと多くの研修に参加できるようにした方が、このような制度よりも役に立つと感じる。
- ・ 本当に、ずっと続くのだろうか…と思うし、なぜ、この制度を導入しなければならなかつたのかとか、やり方とか、深く検討されたとは思わない。受講して学べたことは良かったと思うが、上の方の動機が、本当に「教育の未来への展望」をふまえた上で決めたのかどうか…疑問である。教員を信頼しなくて教育に未来はないと思う。
- ・ これ以上、教員を苦しめないで!!と言いたいです。(受講したいものが受けられないという)住んでいる地域で格差が出ているのは納得できません。こういう制度をするのであれば、きちんと受け皿を作つてから行なつてほしいです。そもそも、この制度は、教員のためではなく、ただの見せしめとしか思えません。見切り発車もいいところです。10年後に更新…とありますが、10年後に、この制度が残っているのも疑問です。※(原文の一部をカット)
- ・ 教員免許を取得するために教育学部に入り、4年間学んだ事は、何だったのかと考えさせられる。10年間の有効期限つきで取得した免許ではなかった筈。数週間で取れる運転免許などとは、質が異なる。免許状を取得した時の意味や価値をその後の制度化で歪められ

るのは納得いかない。管理職、一部の指導的立場にある教員については免除されるという制度にも不公平を感じる。

- ・ 学校では年間計画に研修も計画に組まれ、現場で直面する課題の解決に努力している。各学校の研修が十分な予算でできるような行政の支援が、むしろ必要だと思う。もう少し、教職員の待遇を大事に扱ってもらいたい。
- ・ 内容次第だと思うのですが、ただ受講すればいいという感じの講習に意味があるのかなあ・・と疑問に思います。どういう意図があり、どういうものを教員に求めているのかがあまりわかりません。やるべきことは他にもあるように思うのですが・・・。
- ・ 各県の研修制度（10年研等）との整合性もなく、おそらく今後はそれぞれに（まるで学力テストのように）意義があるとして、中止されることはないだろうと悲観的な予測。ビルド&ビルドで学校は多忙になるばかりで、多忙さゆえに制度の趣旨とは反対に教員の資質の劣化はさらに進むと思う。ある同僚は、「やめろということですよね」と言っていた。多忙についていけない者、年をとり体力的に続かない者は管理職になるか辞めるしかないことになっていく。もう今が、限界。文科省の政策のダッヂロールもいいかげんにしろと思う。対処療法の繰り返しで子どもに力がつくはずもないし、先生方も振り回されるだけ。免許更新に限らず全体の制度設計を根本から作り直す（現場の視点で）べきだと思う。
- ・ 充分な検討もなされないままスタートした制度という感がしてなりません。更新するならするで、はたして受け皿は充分なのだろうか。会場が少なければ、遠方から受講する方の経済的な負担は、かなり大きくなる。教員も一般の生活を送っているわけであるから、いろいろな状況の方がいるわけで、もっと多くの側面から考えて実施計画、内容を検討してほしい。ただ、疲れはてるだけの更新では何の意味もない
- ・ 免許更新制度の必要性や方法・内容等について十分に議論されないまま導入されたことに納得がいかない。現状で必要性があるのなら、もう少しはっきりとそのことを示し、この制度で問題点がクリアできるのか再検討してほしい。指導力の向上に関しては、この講習での実りは期待できないと考える。予算の無駄づかいになることが予想される。今年度の予備講習のやり方もおかしいと思う。受け皿が少なすぎるし、早いもの勝ちのやり方はおかしいと思う。パソコンのインターネットが使えない方にとって申込みが難しすぎる。国家がこの制度を推進するのなら、個人負担はできるだけなくすべきだ。※（今回受講できなかった方の意見）
- ・ 申込みができる方とできない方がいることはおかしいと思います。申し込めば全員受講できるようにしてほしいと思います。この件で免許失効ということになれば大変だと思います。※（今回受講できなかった方）
- ・ 莫大な費用と時間を使ってまで導入しないといけない制度なのだろうかと疑問に思う。そもそも免許更新がなぜ必要なのか、最新の知識・技能が講習によって得られるものだろうか（県の教育センターでは学べないのであるのか）と納得できないことだらけである。さらに付け加えれば、講習免除者は常に最新の知識技能を身に付けていらっしゃるのでしょうか？（※今回受講できなかった方）

## ② 制度に対する肯定的意見

- ・ 形式や方法はまだまだ議論があるところかと思いますが、社会の変化、研究の進歩など

を考えるとこうした機会は是非必要かと思いました。

- 選択(理科)で受講した内容はとても勉強になつたし、やってよかったと思う。ただ、教科によっては開設講義の種類や数に偏りがあるようだった。
- 新しい情報を知る、自分のとりくみを振り返る機会としては、いいと思います。内容が充実するといいです。離島でしか実施がない講座は参加が難しい。必修は枠を大きくしてほしい。
- 講習の中には大変魅力的な内容であったものの話もきいたりしました。学んでよかった、もっと学びたいという内容のものの充実を進めると、この制度もより有意義なものになると思います。
- 決まってしまったものは仕方がないと思います。受講したい方ができるように、もっと体制が整えばいいなあと思います。＊鹿児島は離島も抱えているので、会場がふえれば・・・。大隅でも受けられれば・・・。※（今回受講できなかつた方の意見）

## おわりに（真に私たちが求めていることは）

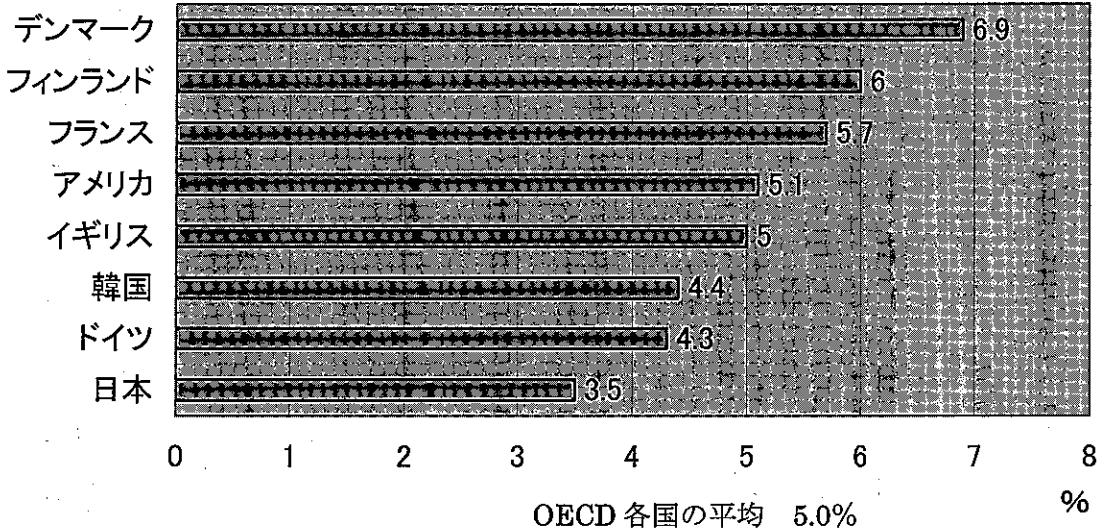
学校現場が、いま、どれほど慢性的な過重労働の中で日々の教育活動が営まれているのか、文科省が行った超勤実態調査をはじめ、各種の勤務実態調査でも明らかになっています。そのような職場において、病気休暇が増加し、その6割を占めるのが精神疾患であることが指摘されています。病休をとらないまでも、身心に不調をきたす教職員は増加しています。教員定数の増は見送られ、40人学級はいっこうに改善されないまま、学校は、さまざまな課題を背負わされ、子どもと向き合う時間の確保もままならない状態です。そのような状況の中で、多くの教員が「子どもたちに分かる授業をしたい」「子どもたちに学力をつけたい」「もっと、研修を積み自分の力量を高めたい」と願っています。

本来、教員は、日々の教育実践活動において、子どもたちと向き合い、そして、教師集団のつながりの中で実践を共有しあう中から教員としての人間的、専門的力量を形成していく必要を感じていきます。自ら積極的に立ち向かい、迷い・悩み・苦しみながら様々な創造的実践を体験し、その積み重ねにより教員としての力量の内実を豊かに形成していくものです。その際、子どもとの関わりや教員相互の実践交流の場が重要な意味を持つのです。教員免許更新制度にあるように、10年毎に大学に出かけて、「最新の知識・技能を身につけ、自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊厳と信頼を得る」ことは、現場実践とかけ離れた時間と空間の中で身につくはずはありません。大学での学びなおしが必要であるならば、全ての教員が、自分の主体的意思に従って、研修ができるような、時間と労働環境の条件整備に努めることが教育行政のすべきことです。

余裕のない中で、多額の自己負担を強いられ、夏季休業中や土曜・日曜、お盆、年末もなく、必修・選択講座を受講しなければならないとなると、今回のアンケート調査の中でも多数指摘されているように、徒労感と疲労感だけが募っていくことになります。この制度の導入は、教員の資質の向上どころか、教員の精神的ダメージにより「自信と誇り」を失せさせ、日本の教員の力量形成にはかりしれない損失となることは間違ひありません。

国内総生産（GDP）に占める教育支出の割合は、先進国の中で、主要先進国の中で最下位である（下表参照）にも関わらず、教育現場が望まない「教員免許更新制度」導入に、巨額の予算をつき込んで行なう必要ありません！教職員の資質向上を図るためにには、多様な研修機会を保障するとともに、自己研鑽するための時間を十分に確保できる環境整備が重要です。

### 国内総生産(GDP)に占める教育費支出の割合



### アンケート調査にご協力いただいた皆さんへ

今回のアンケート調査にご協力いただいた皆さんには、お忙しい中で様々なご意見を寄せていただきました。鹿教組の組合員の方々以外の先生方からも多数ご協力いただきました。ありがとうございました。

予想以上に多くの回答が寄せられたことは、「教員免許更新制度」の導入による問題や課題が、山積していることの表れだと考えています。短時間での分析で、寄せられたデータをより多角的に分析するまでには至りませんでしたが、日教組は、12月の政府の予算編成等に向け、全国各県で行われている予備講習の分析・検証を行い、文科省交渉を行っていきます。鹿教組も県教委交渉・鹿児島大学との協議を進めていきます。

この制度の来年4月実施の先送り、凍結、そして、廃止に向けたとりくみを強化するために、この学習資料をまとめました。この分析結果は、県教委、鹿児島大学にも提供したいと考えています。

今後、国会議員への要請行動のための大型ハガキ行動を行います。ぜひ、積極的な行動をお願いします。

5) 10年目研修と重なりが出ると負担が大きくなると考えたから  
6) 友人や管理職等に勧められたから  
7) その他 [ ]

## 鹿児島県教職員組合

08年9月

資料：アンケート調査用紙

## 教員免許更新制予備講習に関するアンケート調査にご協力ください、

この調査は、5月に鹿児島大学が募集した教員免許状更新の予備講習に参加された方と、受講希望したが予備講習を受けられなかつた方を対象に、講習の募集方法や離席の際日、内容などについての問題点や課題などを集約し、それをもとに、県教委や鹿児島大学との協議の際の資料として参考にさせていただきます。また、文科省と日教組の交渉においても、全国の状況を細かく調査し、制度設計の不備などについて指摘していくための資料として活用いたします。

\*恐れ入りますが、集計の基礎資料としますので、該当するものに○印を付けてください。

【学校種】 1) 小学校 2) 中学校 3) 高等学校 4) 特別支援学校

【年齢区分】 2011年(平成23年)3月31日時点

1) 35歳 2) 45歳 3) 55歳 4) その他

【受講会場】 1) 鹿児島大学 2) 在美大島会場 3) 種子島会場 4) 他県(複数選択可)  
(複数選択可)

## 1 免許状更新講習の予備講習の実施については、どのようにして情報を知りましたか。

(複数選択可)

- 1) 5月に県教委が出した通知が、学校で広報されたから
- 2) 講場の同僚や友人等から聞いた
- 3) 管理職から聞いた
- 4) 鹿児島大学のホームページで知った
- 5) 組合の情報で知った
- 6) その他 [ ]

2 鹿児島大学への予備講習の申し込み方法は、インターネットを通じて行われましたが、そのことについて答えてください。

- 1) 面倒であった
- 2) 別に支障は無かった
- 3) 郵送などインターネット以外が良かった
- 4) 自分だけでは、申し込みができなかった
- 5) その他 [ ]

## 3 今回の予備講習を申し込んだ理由は、次のどれですか。(複数選択可)

- 1) 本格実施の前にどのような講座があるのか知つておきたかったから
- 2) 予備講習の受講料が無料だったから
- 3) 早く受けたほうが有利だと感じたから
- 4) 本格実施されたとき、今回の予備講習の一部または全部が免除になるため聞かせてください。(自由記述)

5) 10年目研修と重なりが出ると負担が大きくなると考えたから  
6) 友人や管理職等に勧められたから  
7) その他 [ ]

## 4 自分が希望したとおりの講座の受講はできましたか。

- 1) できた
  - 2) できなかつた
- 理由 [ ]

## 5 予備講習の実際にについてお尋ねします。

(1) あなたが受講されたのは、必修と選択どちらを受けましたか。

- 1) 必修 (12時間) だけを受講した
- 2) 選択 (18時間) のすべてを受講した
- 3) 選択の一部だけを受講した
- 4) 必修と選択 (18時間) 全てを受講した
- 5) 必修と選択の一部を受講した

(2) 受講された講座の内容について答えてください、

- 1) 満足できる内容であった
- 2) あまり満足できる内容ではない
- 3) 不満である

理由 [ ]

(3) 予備講習の多くが、夏季休業中や土曜・日曜・お盆の期間に開設されました。それについて、あなたのご意見を書いてください。

## 6 今回予備講習を受講された感想を書いてください。(何でも結構です!)

7 勤務処理について、県教委は「研修」としていますが、現場での混亂はありませんでしたか。

- 1) 研修で認められた
- 2) 研修以外の勤務処理→年休・出張・特休・別動 \*○印を!
- 3) 勤務処理でトラブルがあった(例えば、午前中は学校に出勤して午後だけ研修など)

具体的に

8 予備講習参加のためにかかる費用について答えてください。  
(講習会場へ行くための交通費や宿泊費等の総額を概算で書いてください。)

(円) 程度

9 1975年(昭和50年)4月2日から1976年(昭和51年)4月1日生まれの方については、10年目研修が免許更新講習と重なる方も出てくることが予想されます。そのことについて、該当の方は、問題点や課題がありましません。

10 来年4月1日から本格実施される予定ですが、教員免許更新制度について、あなたの考え方を聞かせてください。(自由記述)